

令和6年白老町議会産業厚生常任委員会会議録

令和6年10月10日（木曜日）

開 会 午前11時16分

閉 会 午後0時20分

○会議に付した事件

所管事務調査

1. 白老町新水道ビジョン・経営戦略について
2. 陳情審査について
「陳情第1号 竹浦孵化場線の簡易舗装工事又は代替の改良工事に関する陳情書」
3. 分科会について
4. 委員会視察研修について
5. その他

○出席委員（7名）

委員長	森 哲也 君	副委員長	飛 島 宣 親 君
委員	水 口 光 盛 君	委員	田 上 治 彦 君
委員	氏 家 裕 治 君	委員	西 田 祐 子 君
委員	前 田 弘 幹 君		

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者の職氏名

上下水道課長	山 本 康 正 君
上下水道課主幹	岩 本 寿 彦 君
上下水道課主幹	鈴 木 司 君
上下水道課主幹	山 崎 英 文 君
上下水道課主査	藤 澤 晃 君
上下水道課統括主任	河原井 久 生 君
上下水道課主事	吉 井 雅 晴 君

○職務のため出席した事務局職員

主 幹	小山内 恵 君
一般事務職員	白 綾 美 紀 君

◎開会の宣告

○委員長（森 哲也君） ただいまより産業厚生常任委員会を開会いたします。

（午前 11 時 16 分）

○委員長（森 哲也君） 本日の調査事項は白老町新水道ビジョン・経営戦略についてでございます。

本日の説明者といたしまして上下水道課、山本課長、岩本主幹、鈴木主幹、山崎主幹、藤澤主査、河原井総括主任、吉井主事がお越しになっております。それでは、説明の程よろしく願いいたします。

山本上下水道課長。

○上下水道課長（山本康正君） 今回の新水道ビジョン・経営戦略におきまして、先日の全員協議会で説明をさせていただきましたが、今回その中で特に我々としては今の水道施設の現況、耐震化の状況、水道料金でいきますと近隣自治体との水道料金の比較で特に3つの資料で新たに作成いたしました、今回ご提示させていただいております。いずれにしても、まず皆様に議論の資料を提示させていただいて、今回は説明はなるべくコンパクトに、皆様のご意見をお聞きして、今回お答えできるものをお答えし、次回以降に対応できるものについては次回以降対応してまいりたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。それでは、まず水道施設の現況につきまして藤澤主査から説明させていただきます。

○委員長（森 哲也君） 藤澤上下水道課主査。

○上下水道課主査（藤澤 晃君） 上下水道課、藤澤です。よろしくお願いいたします。まず、水道施設の現況で、こちらの施設の現況図を見ていただきたいのですが、白老町の浄水場は白老浄水場、虎杖浜第1浄水場、虎杖浜第2浄水場と3か所ありまして、その現状を説明させていただきます。白老浄水場は、道道白老大滝線にある徳寿の奥のほうに白老川からの河川の表流水を取り込んで白老の浄水場でろ過をして、きれいな水を配水池で貯めて黄色い区間に水を配っている状況でございます。続きまして、虎杖浜第1浄水場は、倶多楽湖の麓に湧き水がありまして、椿の沢という湧水から取水して配水池、赤い丸がついているのですが、そこで水を溜めて配るだけの形でやっているのが赤い区域で、虎杖浜第1の区域でございます。続きまして、虎杖浜第2浄水場は、こちらは青い丸ところの配水池に地下水をくみ取りまして、くみ取った水を当初はそのまま配水池に上げて配っていたのですが、ヒ素の基準値が変わりまして平成7年にヒ素の取りの除去装置を作りまして、ヒ素を取って使えるような水に変わっている形で、平成8年にヒ素取棟を作りまして、青い地区に水を配っております。ここで表の下を見てもらいたいのですが、維持費として虎杖浜第1は湧水として配られた水に次亜塩素を入れて配っているだけなので電気代を入れても0.4円ほど、白老は河川表流水ですので濁度を取って塩素を入れて配っている形で、1立米当たり3.8円程度、令和元年から4年間の平均での維持費はかかっております。1番お金のかかる虎杖浜第2は、ヒ素取棟と配水池が山の上にありますので、その電気料で1平米当たり20円と、かなり高い料金がかかる状況となっております。今回整備計画としましては、第2の浄水場を中止にしたいと懸案して、今のところ令和19年くらいになると浄水場がなくても持つのではないかと計画は立てています。第2浄水場の地域なのですが、維持管理としては黄色いところ

ろと赤いところの漏水やシャーベットがあると、青い地区から黄色と赤い地区に送り込んで維持管理しています。整備計画としましては、第2は令和19年までですけど、今まで30年程度何もやってこなかったんで、使えるように維持管理をやってから白老と虎杖浜第1をまず直していきたいので、耐震診断としては令和9年から行いまして、耐震設計を令和10年、耐震化工事を令和11年からやりたいと思っております。それとずれ込む形で虎杖浜第1の耐震診断を行い、補強設計を令和12年度に行い、耐震化工事を令和13年に行う計画を立てております。虎杖浜第2は、浄水場の施設としては令和19年に止める予定ですけど、配水池としては先ほど言ったとおり、青い地区から黄色い地区に漏水があったら送る形にしておりますので、配水池の水はほしいので、これからだんだん人口減少で第1の地区が人口が減ることも勘案しまして、第2の水を第1の配水池に排水管を通して、配水池としての機能をだけは残して、つくるための電気代はかからないんですけど、配水池として残してあれば、この配水から青い地区に行く形。第1に余った水と言ったらおかしいですけど、そういう形の計画を練っている状況です。耐震化の2としまして、管渠の耐震化は塩ビ管の更新を考えています。塩ビ管は、のりづけでついている管でありまして、通常今までは耐震管ではないものですから、常時漏水の危険がある管でございます。こちらをまず直してから、導水管の更新を行いましてから、そのあとに重要施設までの更新を行う計画を考えております。

○委員長（森 哲也君） 岩本上下水道課主幹。

○上下水道課主幹（岩本寿彦君） 私から、近隣市町との料金比較をご説明させていただきます。お手元にごございます資料につきましては、令和4年度の実績になります。上の段でございますが、近隣の胆振管内の市の比較で、この中で1番高いところが登別市で、その次に室蘭市、伊達市、1番安いのは苫小牧市となり、白老町がこの中に入りますと、登別市の次に位置づけられます。続きまして下の表でございますが、これは管内のまちの比較しますと、1番高いところが安平町でございまして、その次に厚真町、洞爺湖町、むかわ町、5番目に白老町の料金が高くなります。全体で申しますと、4市7町中、白老町は6番目に水道料金が低い位置づけになります。

○委員長（森 哲也君） ただいまの説明におきまして、質疑があります委員はおりますか。

水口光盛委員。

○委員（水口光盛君） 水口です。資料3の近隣市町と料金比較で、一番分かりやすい資料かと我々は思っております。よく我々が町民と話すときに苫小牧市より高い、でも登別市と同じくらいという言い方、比較をされて言われる中で、今後この水道ビジョンも含めて、ビジョンは全員協議会で聞いていますので資料1の説明であった耐震化とか、資料2でありました管渠の更新、令和45年ですから約40年後です。ここに人全員いくつなのか考えてしまったのですが、これをしていながら水道料金を勘案すると思うのですが、一番今この水道ビジョンで全員協議会でもあった料金の話だと思うのです。ですから、この水道ビジョンで老朽化も含め耐震もやりながら、料金がどのように変化していくのが水道ビジョンに書いたことではあるかと思うのですが、やはり現在の水道ビジョンで出したお金と建設費もそうなのですが、1年もたてば1.4倍になり1.5倍になりますので、ある程度料金も見れるものは見ておく形で経営をしていかなければ、すぐ

またビジョンを変えなければいけなくなると思うので、今後の水道ビジョンのお金、水道料金と建設費また耐震化をやる見積りの仕方、積算の仕方についてどのようにお考えになっているか質問いたします。

○委員長（森 哲也君） 山本上下水道課長。

○上下水道課長（山本康正君） 水道料金、経営戦略の中でいろんな整備計画、管の更新の費用とか、全て裏づけとなるものを今後の整備計画を持った中で水道ビジョン、それから経営戦略を今回の流れではつくっております。今、お話させていただいた新水道ビジョン、経営戦略においてはこれからの10年間で金額的、経営的なものを含めてみております。当然その整備については、もう30年40年という、先ほど申し上げたとおり長期的なものになりますので、それを踏まえて10年間で切り取った中で、まず今耐震化、非常に重要なことだと我々も認識していますが、耐震化以前の問題として施設を動かしていかなければいけない。日々安心安全な水を供給していかなければいけない事態、電気設備等も含めて改修等もしっかりしながらやっていかなければいけないのが現実です。なかなか一足飛びに耐震化率を一気に上げるのは現状としては難しいと考えております。最終的に水道の内部留保資金、何かあったとき、何か設備が壊れたときに対応できるだけのお金も水道会計として持っていなければいけない。そこも含めて料金改定を10年間で考えさせていただいて、特に経営戦略の中に金額を入れさせていただいている状況です。

○委員長（森 哲也君） 河原井上下水道課総括主任。

○上下水道課総括主任（河原井久生君） 料金と計画との兼ね合いの話なのですが、水道料金の算定につきましては3年から5年で改正をかけるのが前提になっていまして、今の計画ですと5年ごとに見直しをかけることになっています。整備計画に出している金額につきましては、現状の金額に国で出しているデフレーター、上昇率を掛けているのですが、5年程度しかでデフレーターがありませんので、5年ごとの料金の見直しの時点で、それぞれのその時点の金額を拾い直し、洗い直し、そこで調整をかけまして、それを元にして新たな料金の考え方をその時点で考える形を取って進めていくかと思えます。

○委員長（森 哲也君） 水口光盛委員。

○委員（水口光盛君） ビジョンに関しては10年で見ながら、料金については5年、大体そんな形なのかなと思うのですが、先日の全員協議会の中でも来年、再来年には決算でもいろいろとお話があったと思います。来年、再来年もしかすると来年度予算から料金を上げなければ、なかなか水道会計は持続可能ができないという説明だったと思っています。ですから、町民に対して過去のことを言うと300円ほど値下げをしている。それを町長の答弁で戻すと言い方をしていましたので、戻しながら企業会計で三条予算については2,000万円ほど今黒字ですけど、来年度以降そこが赤字になっていくと思いますので、やはり300円ほどまず料金としては三条予算を戻しながら、先ほど言われた耐震化とかインフラのところはやはり四条予算、資本的になりますので、それについては一般会計も含めて、これはもうインフラになりますので、水道会計の水道料金だけではいかないと正直思っています。そこには、増税されている固定資産税の2億5,000万円のうちの1億、全部合わせてこれで料金改定をやれば大体4,000万円から5,000万円上がるとして1億を入れて1億5,000万円としてインフラを守っていかなければ、今朝のテレビ報道でもありましたよう

に、広島県の下水かどうか分かりませんが、穴が空いて道路が陥没するとなり得ますので、この水道の施設、日々やっていることも含めて、これからインフラとしてはやはり一般会計から充当することが施設を守るとしては必要なのかなと。そして、先ほど言った三条予算で水を生成する料金を補っていく考え方を持たなければ、いくらいろんな話をしても、ビジョンを出したとしても絵に描いた餅になってしまうので、やはり財源を明確にしてやったほうがいいと考えているのですが、どのようなお考えですか。

○委員長（森 哲也君） 山本上下水道課長。

○上下水道課長（山本康正君） 今お話のあったとおり、我々の立場から、いわゆる独立採算制の会計、独立採算ですから一般会計からお金をもらいますとはなかなか発言が難しいところでありまして、あくまでも独立採算で水道会計は水道会計で整理をつけて、もし料金を改定するのであれば料金を改訂するのが原則になるかと思います。ただ、水口委員からお話がありましたとおり、今300円税抜きで下げていたり、5立米と8立米での引き下げがありまして、一定程度平成22年から料金の引き下げを行ってきた結果が今の水道会計に影響を与えているのは間違いないかと思います。そこは町民の皆さんにご理解をいただき、戻させていただくかどうかについては、上下水道の事業の運営審議会がございますので、そこに諮問をさせていただいて適正な水道料金についてはご審議いただき、最終的には条例の形で議会の皆様にお示しをして、妥当な水道料金を決めていきたいと思います。なかなか一般会計の繰り出しについて言及するのは今我々の立場としては難しいですが、ご意見としては承っておきたいと思っております。

○委員長（森 哲也君） 水口光盛委員。

○委員（水口光盛君） 産業厚生常任委員の私の意見としてあったことと、今後インフラという意味で何もやってこなかった、できなかった財政状況だったと思いますので、昔と違って平成21年から見れば財源がありますから、インフラ整備をしなければいけない意味で、やはり水道は持続可能な形でやっていかなければいけないと私は思っていますので、そういう意見があったということで検討していただければと思います。

○委員長（森 哲也君） 山本上下水道課長。

○上下水道課長（山本康正君） 平成2年から水道料金は上げてこなかった。いろいろなものが上がっていく中、物価が上がっていく中で水道料金は平成2年から上がってきてない事実がありますので、そこはしっかりと今後審議会等でも議論いただき、もちろん産業厚生委員会の中で皆さんのご意見いただきながらしっかり議論しどういった形、適正な水道料金について決定していきたいと考えております。

○委員長（森 哲也君） ほかに質疑をお持ちの委員はいらっしゃいますか。

前田弘幹委員。

○委員（前田弘幹君） 前田です。図解、話し違うのかもしれないですけど、老朽化で今後経年劣化等含めて修繕、改修等々考えたときに、単純にこの図解、場所です。横に長い白老町が何か災害があったときに全部ストップする気がするんですけど、別の場所に配水池とかやる考えはないのか。せっかく一番の湧き水として結構この水の多い町で単純にほかのところできないのかなと。同じ建て替えるとか改修するなら、お金をかけるときにわざわざそこにやらなくても、もう

ちょっと場所を散らすなど、考えはないのかをお聞きします。

○委員長（森 哲也君） 河原井上下水道課総括主任。

○上下水道課総括主任（河原井久生君） 現状からいきますと、建物自体の更新を考える場合に確かにそういう話しは出てくると思いますが、今考えている整備計画40年の中では、建て替えるのがかなり後年になりますので、その時点の水量も考えて検討は必要かと思います。現時点の修繕等電気の機器の更新関係については現状のまま進めるのが今の整備計画です。

○委員長（森 哲也君） 西田祐子委員。

○委員（西田祐子君） 西田です。工事をしていくに当たってそれぞれの経費、総額、今回示されていないのですが、40年の計画ですから出すのも厳しいのかと思いながらも、一応大ざっぱなものがあれば教えていただければと思います。2点目が、先日、我が家も下水道管が折れていて排水管を取り替えてもらったのですが、事業者の方に見ていただいたら、白老はこのような地形なので、白老は下水道管でも水道管でも外れたり折れたりするところが多いのだと聞いています。私の知り合いでも結構いますし、ところがいざというとき一番大事なのは何かというと、電気ではなく水道なのです。今ほどもほかの委員も言っていますが、いかに水を供給するかは町民の命を守る一番の最低限の生命線だと思うのです。水道料金を払わなくても白老町は水道を止めないで供給している部分もかなりあります。ありがたいなと思いつつも、本当は大変なのだけれど、それだけ水は人の命に関わる問題です。そこのところを町としてどれだけ真剣に考えているのかと思うと、大事にしていかなければいけないと思います。300円ずつ安くしていた分、前の議会で議員が言っていましたけども、その分一般会計から戻してもらいたいと思います。水道会計が負担してきたお金は、白老町が大変だったから、白老町の一般会計の財政、特別会計の財政が大変だったから何とかしなければならないことで、苦肉の策として水道会計からお金を出してきたわけです。当然普通のまちに戻った、会計も普通に戻ったのであれば、この工事に対してはきちんと返してもらいたい。極端なことを言うと、利息をつけて返してもらってもいいのではないかと思います。くらいまちに対して貢献してきているのですから、変な言い方ですけども上下水道課としては、その辺はきちんとシビアにお金をいただいて、いかにインフラをきちんと守っていくことを考えていただければと思います。その辺お伺いします。

○委員長（森 哲也君） 1点目の質問についてはあとでよろしいので、2点目の答弁をお願いします。

山本上下水道課長。

○上下水道課長（山本康正君） 2点目のご質問ですけれども、水道、下水も含めて老朽化が進んで白老町は水道、下水にしても事業を始めてかなり早く整備をしているまちになります。早くやったおかげで当然老朽化が進んでいて、漏水の件数的には年々減ってきてはいますけども、漏水になっているところが多くなっていて、その対応に追われているのが現状です。安心安全な水を供給しなければならないこともありますので費用負担については、先ほども答弁重なるかもしれませんが、一般会計からいただくかどうかについては今後しっかりと審議会等でも議論をいただき、極端なことを言うと、そのまま足りない分を町民の負担、町民の皆さんの水道料金でいただくかどうかは、そこは議論の余地が充分あると思うのです。単純に足りないから、いくら独

立採算といっても水道料金を跳ね上がる、そうするとやはり一般の町民の生活にも大きく影響することになりますし、先ほど西田委員から停水、水道料金滞納でも停水をなかなかしないというお話されました。今、公平性の観点から収納率もかなり高く維持できておりますし、そこは公平性を担保する、水道の会計を健全化していくためには滞納をなくさなければいけませんので、そこはシビアにやらせていただいて、一般会計からの部分については今後いろいろ議論をさせていただく中で検討させていただきたいと考えております。

○委員長（森 哲也君） 西田祐子委員。

○委員（西田祐子君） 課長の答弁、大変だろうなと思いながら聞いていました。というのはこのたびもコロナで水道料金を安くしてくださる、それはありがたいです。でも、将来の水道のことを考えたら、果たして個々の家庭に安くするほうがよかったのか、それともきちんとしたインフラ整備にこれはお金を入れるほうが正しかったのか、これは非常に議員として疑問を感じるところがありました。安くしてもらったからうれしいです。でも、今後そういうものを対策するときには、個々の家庭が安くなることが正しいのか、本当はインフラにきちんとしたお金を注ぎ込むべきなのか、今後行政としてきちんと考えていただければありがたいかと思います。

○委員長（森 哲也君） 山本上下水道課長。

○上下水道課長（山本康正君） 今、お話あった物価高の対策です。交付金をいただいて、今年度基本料金を下げてきました。我々としても、非常に下げておいて来年上げる議論をするのはなかなか正直申し上げて違和感があります。町民からすると、何をどうなのかはとあると思うのです。それは、町の政策的な中でいろいろなもの、物価高対策はあるけども、皆さんが公平に供与されている水道に関して費用負担を少しでも減らすことでやらせていただいた部分ではありますが、ただ料金改定を考えなければいけないのは間違いございませんので、そこは切り離して、町民のご理解としては厳しいものはございますけども、あくまでも今後の議論を踏まえて料金改定を進めていきたいと考えております。そこは丁寧に進めてまいりたいと考えております。

○委員長（森 哲也君） 河原井上下水道課総括主任。

○上下水道課総括主任（河原井久生君） 先ほどの整備費用の話ですが、令和6年から令和45年までの整備計画の40年間で115億円ほどになります。これは、先ほどお話あったのですが、浄水場の場所等に関しましては確定がされていませんので、今の場所に建て替えた場合として算出はしております。

○委員長（森 哲也君） ほかに質疑をお持ちの委員いらっしゃいますか。

飛島宣親副委員長。

○副委員長（飛島宣親君） 飛島です。確認ですけど、現状、虎杖浜第1浄水場を稼働して赤いところと青いところをやっているのでしょうか。漏水が多いときに第2を回して青いところにと考えてよろしいのでしょうか。

○委員長（森 哲也君） 河原井上下水道課総括主任。

○上下水道課総括主任（河原井久生君） 虎杖浜第1浄水場は、通常は赤っぽい色のところが第1浄水場で入れているところです。第2浄水場が青のところですよ。虎杖浜第1浄水場で大きな漏水等がありまして、水量が間に合わない場合は、青色の虎杖浜第2浄水場から水を回して足りな

い分を供給する形で運営しております。

○委員長（森 哲也君） 飛島宣親副委員長。

○副委員長（飛島宣親君） 飛島です。理解できたのですが、第2浄水場の青いラインがあります。これは第1と第2を直結して漏水箇所の水の多い少ないところを供給、うまく回せないものなんでしょうか。第1は、コストがかからない状況もあって、第1と第2を直結すればうまくいくのかと感じに思えたのです。

○委員長（森 哲也君） 河原井上下水道課総括主任。

○上下水道課総括主任（河原井久生君） 予定区域、整備区域としては第2浄水場は青のエリアになっていますが、実際上はここはコストがかかることで、最低限の水量を動かしている。実際には半分程度の量しか区域的には持たせておりません。完全に止めるとなる何かあった場合には動かさませんので、ある一定程度通常時でも稼働させていかなければなりませんので、一応計画としてはこの区域なのですが、実際はかなり絞った運転をしているのが状況です。

○委員長（森 哲也君） ほかに質疑をお持ちの委員はいらっしゃいますか。

氏家裕治委員。

○委員（氏家裕治君） 1つだけお聞きしたいのだけれども、水道ビジョンをつくりました。いずれにしても、今までのような独立採算制で水道事業、下水道も含めてだけれども、成り立っていないのは私たち素人でも分かるのです。では、どこを基準に今後水道料金、下水道料金の新たな企画をつくっていかねばいけないのか。もう1万人を切る。それを、これから1万5,000人に持っていくとか、20年水準を維持するのであるならばまだやり方もあるかもしれないけれども、どんどん人口が減っていく中で高齢化率も増えていく。使用量はどんどん減っていくわけです。そうなったとき、新たな物事の考え方、独立採算制と言えども新たな物事の仕組み、考え方をそこに持って来ないと、当然やりくりはできないはずなのです。そののところをもうちょっと詳しく今後、我々常任委員会の中でもそこをちゃんと聞いていかないと、ただ単純に上げればいいのか下げればいいのか話ではないと思うのです。今後の課題として、3年ぐらいは常任委員会の中でしっかり勉強しながら町民生活向上のために私たちも頑張っていかなければならないし、それ以上何ができるのか、町民負担になるかもしれないけれども、将来的にはこういった安心感のある水道事業になっていくということも勉強していかなければならないと思っているのだけれども、課長どうですか。

○委員長（森 哲也君） 山本上下水道課長。

○上下水道課長（山本康正君） 水道、下水もそうなのですが、一度広げてしまった水道網は、人口が減ったからといって、ここを止める、あっちを止めるとは実際問題ならないのです。それをコンパクトにしたところで一応管は入っていますので、家がぽつぽつあり、そこにかかる費用はどんどん老朽化して加算でいきます。それに対して水道料金、人口は減っていくので当然減っていく。節水の機械も発達していますから、節水の意識も高まって皆さん節水されています。水道、水が売れなくなるとなりますので、我々本当に企業としては厳しいです。全員協議会でもお話ししましたが、町長からも一定程度、一般関係の繰り出し金については言及ありましたので、私も先ほどから苦しい答弁、独立採算ですとずっとお話していますが、そこは一定程度町

民の皆さんの負担を考えれば、考えざるを得ないのかと氏家委員がおっしゃったようなところになってくると思います。ただ、そこには企業ですから企業努力、先ほど言いました第2浄水場を令和19年にやめて、その費用が減った分で将来的な費用をどうするかとか、さらにもっとコストを減らせないのか考えていかなければいけませんし、ちゃんと情報をお伝えして議論ができる形で進めていきたいと思っていますので、今おっしゃったとおりで待ったなしの状況で、私の立場からするとよくここまで上げないでやってきたのが正直な気持ちです。

○委員長（森 哲也君） ほかに質疑をお持ちの委員いらっしゃいますか。水道ビジョン全般に関連してでもよろしいです。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（森 哲也君） 質疑がないようですので、質疑を終わりたいと思います。

それでは、ここで説明員の方の退席となります。

暫時休憩をいたします。

休憩 午前 11時58分

再開 午後 0時00分

○委員長（森 哲也君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

2、陳情審査についてに入ります。陳情第1号の竹浦孵化場線の簡易舗装工事又は代替の改良工事に関する陳情が委員会付託されました。提出者を参考人として招致して願意を伺うことを考えておりまして、そのほかに今回道路状況の陳情ですので、現地視察も必要かと考えております。提出者の参考人を同日に行うか2日に分けて行うか、この調整を皆さんのご意見を伺いたいと考えておりました。

氏家裕治委員。

○委員（氏家裕治君） 氏家です。あの道路は、実際私も何回も走っているのだけれども、ふ化場まで、道路自体は町道で認知されている。両サイドの流木や立ち木は、道路の幅1メートルとか、町の土地として成り立っているのかどうか。頭の中で整理したいのですが。

○委員長（森 哲也君） 暫時休憩をいたします。

休憩 午後 0時01分

再開 午後 0時13分

○委員長（森 哲也君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

陳情審査の進め方につきましては、まず現地を確認して、その後提出者の願意を確認する方向で進めたいと思います。よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（森 哲也君） 続きまして、3、分科会についてでございます。

飛島宣親副委員長。

○副委員長（飛島宣親君） 分科会ですけど、今回、白老ふれあい食堂ウタルさんと懇談です。視察を11月9日と考えておりまして、懇談を先に行うか、視察の後がいいのか、皆さんにお伺い

したいと思います。

○委員長（森 哲也君） 小山内主幹。

○事務局主幹（小山内 恵君） 当日は皆さんお忙しいとのことで、別な日でこちらに伺いますと言われていました。向こうのほうの後片づけとかそのあと勉強とかいろいろあって、その活動も見て帰っていただいて、改めて懇談は設けさせていただきたいと。会場はできれば役場に伺うのと、見てもらった上で皆さんがこちらに来ていただけるお話でした。

○委員長（森 哲也君） 暫時休憩をいたします。

休憩 午後 0時15分

再開 午後 0時17分

○委員長（森 哲也君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

飛島宣親副委員長。

○副委員長（飛島宣親君） 懇談は、11月11日か13日、氏家委員の予定によっては14日で聞いてもらいます。

○委員長（森 哲也君） 分科会については、そのように進めてまいりたいと思います。

4、委員会視察研修についてであります。日程は、10月30日から11月1日の2泊3日に決まりました。視察先と内容につきましては、記載のとおりでございまして、皆様にもスケジュールを送らせていただいていると思います。別紙行程表の中で質疑等々ありますか。確認したいことなどありますか。

小山内主幹。

○事務局主幹（小山内 恵君） 7時25分千歳空港発になりますので、6時半くらいには空港に着くように白老町を出たいと思います。改めて皆さんにお迎えにあがりますので、ご連絡いたします。

○委員長（森 哲也君） 出発が早ので、ご協力、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

ほかに確認事項ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（森 哲也君） なければ、4、その他です。その他で何か意見をお持ちの委員いらっしゃいますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎閉会の宣告

○委員長（森 哲也君） 以上で、産業厚生常任委員会を閉会いたします。

（午後 0時20分）